



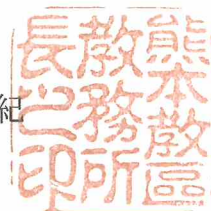
熊本教区教務所発第 119 号

2026(令和 8)年 7 月 10 日

ご 住 職 様

熊本教区教務所長

大 辻 子 順 紀



熊本教区教学研修「夏安居」開催のご案内

謹啓

慈光照護のもと、貴台には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より教区の活動推進にご尽瘁いただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

さて、この度、標記教学研修を別記要項の通り開催いたします。

お忙しい中になることとは存じますが、是非、所属の僧侶・寺族・門徒の皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

合掌

◎開催趣旨

ここ数年、世界では戦争や暴力が生じています。そして国内でも安全保障への関心が高まり、今までの国の根幹・在り方を大きく変えてしまうような動きも加速しつつあります。こうした状況を目の当たりにすると、僧侶として念仏者として信仰が揺さぶられるような場面が増えてきているのではないのでしょうか。そして私たち僧侶・念仏者は、どのように「現実」と向き合っていくのか更に問われていくように思います。

とりわけ先の大戦で、浄土真宗本願寺派は教団自ら積極的に戦争に協力し、加担をしていったという歴史的「事実」があります。

なぜ教団（僧侶）は積極的に戦争を支持したのか・出来たのか・み教えはこの時変容したのか・しなかったのか・そして戦前の「み教え」と戦後の「み教え」は繋がっているのか・繋がっていないのか・これ等の事実と戦前戦後の一連の流れを見つめ直すことは、「いのち」と向き合い続ける宗教の本来的役割を見失わない為に欠かせない視点です。

そこで 2026 年度熊本教区の夏安居は、近現代日本の思想史・仏教史が専門の近藤俊太郎氏を招いて開催したく存じます。「戦争」という重くも避けて通れないテーマを通して、歴史を振り返り、また現代社会のあり様を見つめ直し、そして何より現実の営みを通して各人が僧侶として、念仏者としてみ教えを「問い」・み教えを「尋ねていく」研修の場となる事を願い開催いたします。

同朋教学部 部長 橘孝昭

【裏面に開催要項、申込書あり】

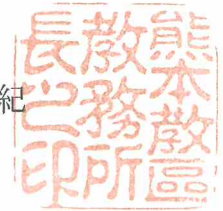
熊本教区教務所発第 120 号

2026(令和 8)年 7 月 10 日

実践運動教区委員会委員 様

熊本教区教務所長

大 辻 子 順 紀



熊本教区教学研修「夏安居」開催のご案内

謹啓

慈光照護のもと、実践運動教区委員会委員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より教区の活動推進にご尽瘁いただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

さて、この度、標記教学研修を別記要項の通り開催いたします。

お忙しい中になることとは存じますが、是非、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

合掌

◎開催趣旨

ここ数年、世界では戦争や暴力が生じています。そして国内でも安全保障への関心が高まり、今までの国の根幹・在り方を大きく変えてしまうような動きも加速しつつあります。こうした状況を目の当たりにすると、僧侶として念仏者として信仰が揺さぶられるような場面が増えてきているのではないのでしょうか。そして私たち僧侶・念仏者は、どのように「現実」と向き合っていくのか更に問われていくように思います。

とりわけ先の大戦で、浄土真宗本願寺派は教団自ら積極的に戦争に協力し、加担をしていったという歴史的「事実」があります。

なぜ教団（僧侶）は積極的に戦争を支持したのか・出来たのか・み教えはこの時変容したのか・しなかったのか・そして戦前の「み教え」と戦後の「み教え」は繋がっているのか・繋がっていないのか・これ等の事実と戦前戦後の一連の流れを見つめ直すことは、「いのち」と向き合い続ける宗教の本来的役割を見失わない為に欠かせない視点です。

そこで 2026 年度熊本教区の夏安居は、近現代日本の思想史・仏教史が専門の近藤俊太郎氏を招いて開催したく存じます。「戦争」という重くも避けて通れないテーマを通して、歴史を振り返り、また現代社会のあり様を見つめ直し、そして何より現実の営みを通して各人が僧侶として、念仏者としてみ教えを「問い」・み教えを「尋ねていく」研修の場となる事を願い開催いたします。

同朋教学部 部長 橘孝昭

【裏面に開催要項、申込書あり】



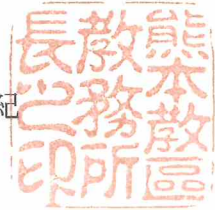
熊本教区教務所発第 121 号

2026(令和 8)年 7 月 10 日

布 教 団 員 様

熊本教区教務所長

大 辻 子 順 紀



熊本教区教学研修「夏安居」開催のご案内

謹啓

慈光照護のもと、布教団員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より教区の活動推進にご尽瘁いただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

さて、この度、標記教学研修を別記要項の通り開催いたします。

お忙しい中になることとは存じますが、是非、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

合掌

◎開催趣旨

ここ数年、世界では戦争や暴力が生じています。そして国内でも安全保障への関心が高まり、今までの国の根幹・在り方を大きく変えてしまうような動きも加速しつつあります。こうした状況を目の当たりにすると、僧侶として念仏者として信仰が揺さぶられるような場面が増えてきているのではないのでしょうか。そして私たち僧侶・念仏者は、どのように「現実」と向き合っていくのか更に問われていくように思います。

とりわけ先の大戦で、浄土真宗本願寺派は教団自ら積極的に戦争に協力し、加担をしていったという歴史的「事実」があります。

なぜ教団（僧侶）は積極的に戦争を支持したのか・出来たのか・み教えはこの時変容したのか・しなかったのか・そして戦前の「み教え」と戦後の「み教え」は繋がっているのか・繋がっていないのか・これ等の事実と戦前戦後の一連の流れを見つめ直すことは、「いのち」と向き合い続ける宗教の本来的役割を見失わない為に欠かせない視点です。

そこで 2026 年度熊本教区の夏安居は、近現代日本の思想史・仏教史が専門の近藤俊太郎氏を招いて開催したく存じます。「戦争」という重くも避けて通れないテーマを通して、歴史を振り返り、また現代社会のあり様を見つめ直し、そして何より現実の営みを通して各人が僧侶として、念仏者としてみ教えを「問い」・み教えを「尋ねていく」研修の場となる事を願い開催いたします。

同朋教学部 部長 橘孝昭

【裏面に開催要項、申込書あり】

熊本教区教学研修「夏安居」開催要項

1. 期 日 2026(令和8)年8月28日(金) 13:00～16:50
2. 会 場 ①熊本教区会館2階大広間(熊本市中央区坪井2-3-32)
TEL 096-343-8283
②各所オンライン(会議アプリ『ZOOM』を使用)
3. テーマ 「浄土真宗の近現代史ー戦争と平和を巡ってー」
4. 講 師 近藤 俊太郎 師(本願寺史料研究所研究員/龍谷大学非常勤講師)
※著書:『親鸞とマルクス主義ー闘争・イデオロギー・普遍性』等
5. 参加対象 教区内僧侶(布袍・輪袈裟)・寺族(式章)、どなたでも参加可能
6. 参加費 一人2,000円
①教務所にて参加の方は、参加申込書に記入の上、
8月25日(火)迄に教務所までファックスまたは郵送
でお申込ください。
②オンラインにて参加希望の方は下記のQRコード先の
Google フォームより、参加申込をお願いします。
参加申込を確認次第、参加費の振込用紙を送付いたします。
オンライン参加希望の方も**8月17日(月)**迄に、お申込み下さい。
※お持ちのスマートフォンのカメラ機能・QRコード
リーダーを使用し、右のQRコードを読込ま
せると、申込情報を入力するサイトに移動します
ので、そちらに必要な事項の入力をお願いします。



7. 担当部 実践運動熊本教区委員会同朋教学部
8. 日 程

12:30	受付	15:55	休憩
13:00	開会式	16:10	質疑応答
13:20	講義①	16:40	閉会式
14:30	休憩	16:50	終了
14:45	講義②		

以上

(切り取り線)

「夏安居」参加申込書

	氏 名
1	
2	
3	

以上 名申し込みます 組 寺